

▶2年連続でクロスカントリー競技・シットスキーで優勝した水野慎一さん



自然や暮らしの中の『循環』とは

～環境サポートセンター連続学習講座 in 登別市～

2月23日(土)、市民会館で『環境サポートセンター連続学習講座in登別市』が行われました。

この講座は、(財)北海道環境財団の環境サポートセンターが、環境省に登録された環境カウンセラーを講師に、さまざまな環境問題について考えてもらおうと、札幌市をはじめ道内各地で開催しているもので、この日は、環境カウンセラー北海道代表の藤田郁男さんと登別市環境保全審議会委員の本間格さんが、『自然の中の循環、暮らしの中の循環』をテーマに講演しました。

藤田さんは「登別は北海道有数の多雨地帯。雨が多いことで、豊かな森林が発達しています」と登別市の自然を例に挙げながら、自然の循環の仕組みやその重要性などについて話していました。



かわいいらくがんがいっぱい

～郷土資料館体験学習『和菓子づくり体験』～

3月9日(土)、文化伝承館で日本伝統の菓子・らくがんを作る『和菓子づくり体験』が開かれました。

この体験学習には、小・中学生10人とその母親7人が参加。郷土資料館ボランティアグループ『S・L・G』の指導のもと、もち米を蒸し乾燥して粉状にしたみじん粉と上白糖を混ぜ、これを型に指で押し付けながら入れ、へらでならしてから、枠をはずすといった、らくがんづくりの工程を親子で楽しみました。

型入れでは、漫画のキャラクターや花模様の型を持参した子もいて、自分だけの、可愛らしいらくがんがたくさんテーブルに並んでいました。



ハンディを感じさせない元気な滑り

～第23回全道ハンディキャップスキー大会～

2月23日(土)と24日(日)の2日間、全道ハンディキャップスキー協会・登別市・室蘭市主催による『第23回全道ハンディキャップスキー大会』が、当市で初めて開催されました。

大会は、アルペン競技がカルルス温泉サンライバスキー場で、クロスカントリー競技が陸上自衛隊来馬演習場を会場に行われ、ハンディキャップ別に分かれて7歳から76歳までの総勢78人が参加しました。

開会式は、大会前日の22日(金)に登別温泉町の第一滝本館で行われ、的場一徳さん(室蘭市在住)が「楽しみながら力強く、華麗に滑ります」と選手宣誓をしました。

大会当日は、一時吹雪になることがありましたが、どの選手も持てる力と技で、ハンディキャップを感じさせない元気あふれる滑りをしていました。



環境や食生活を考える

～第42回登別市内婦人大会～

2月19日(木)、市民会館で第42回登別市内婦人大会が開かれました。

この催しは、登別市婦人団体連絡協議会が、各町内会の婦人部や市内の婦人サークルなどに呼びかけて毎年開催しているもので、今年は、自然環境や健康づくりについて考えようと、キウシト湿原を考える会の伴野美江さんと天使大学看護栄養学部講師の根本和雄さんを招きました。

伴野さんは、スライドを使いながら若山町の重要湿地『キウシト湿原』の貴重な動植物などを紹介し、湿原の保全を訴えました。

また、根本さんは『食育のすすめ』と題して講演。「健康食として世界から注目されている日本型食生活を大切にし、お袋の味として後世に伝えよう」などと話し、約170人の参加者は熱心に聞き入っていました。

